

その人らしい暮らしの実現

～主訴実現プロジェクト～



特別養護老人ホーム大仙もずの音 生活支援部

ユニットサブリーダー 柴田 麻友
グループリーダー 廣瀬 武則



社会福祉法人みささぎ会

藤井寺特別養護老人ホーム
藤井寺市藤井寺4丁目11番7号



高齢者ケアセンター
大仙もずの音
堺市堺区大仙町1番2号



制度の狭間で困窮し社会的孤立
状態に陥っている人たちに、地域
と連環を回り地域公益事業を实践
し、原点回帰して社会に寄与する。



企業主導型保育園
1on1保育園
堺市堺区一条通9-36



高齢者ケアセンター
つどうホール
藤井寺市小山3丁目151番地の1



堺市 北第1地域
包括支援センター
堺市北区北花田町3丁28-1



非薬物療法により、認知症を予防・進行を遅らせる



VR回想法

読み書き計算
認知トレーニング



いつまでも
自分の暮らしを
自己決定する

デュアルタスク歩容機
アルクダケ



ユマニチュードケア



法人訓「先憂後楽」

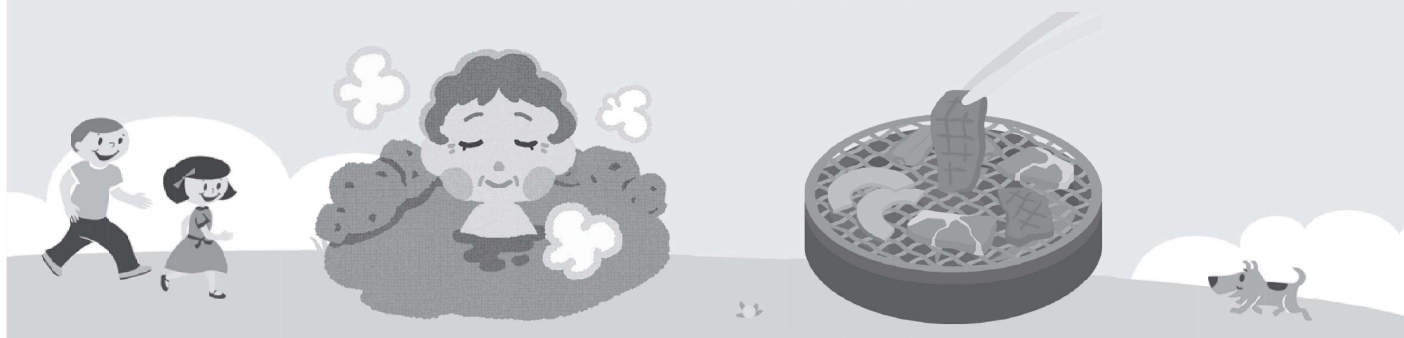
介護の基本方針

- ① 「褥瘡ゼロ」の継続
- ② 「エプロンゼロ」の継続
- ③ プレターミナル期における自己実現の実施

利用者個人個人のこれまでの暮らしの継続を念頭に、
「気付き・考え・工夫する」

～主訴実現プロジェクト～の趣旨・目的

- ・こだわりの把握を行い、実現に向けて創意工夫する。
- ・楽しいコト、好きなコトで生きがいや心の安定に繋げる。



Sさんと温泉へ行こう♪



◆ 事例の紹介 ◆

S氏（女性、98歳、要介護4）

《基本情報》

◎既往歴・現病歴

- ・・・慢性心不全、高血圧、心不全に伴う労作時呼吸苦（常時酸素2ℓ必要）

◎生活歴

- ・・・食堂を営んでおり、毎日地域の方にお弁当を作っていた。長男と暮らしていたが、令和元年に人工股関節置換術を受けて歩行不安定となり、有料老人ホームに入所。令和3年6月に大仙もずの音に入所になる。

◎ADL及び基本情報

- ・・・短距離はシルバーカー使用。入浴動作の中で洗身・洗髪、浴槽を跨る動作は一部介助が必要。食事摂取量にはいつもバラつきがあります。

◎カンファレンスの様子

（本人）「贅沢は言えないけど、毎日お風呂に入りたい。」

（家族への聞き取り）「在宅生活をしていた時は、よく近くの銭湯に行っていた。」



スーパー銭湯への外出支援の取り組みを行う



写真等の使用については、ご利用者・ご家族より個人情報の使用の同意をいただいています。



写真等の使用については、ご利用者・ご家族より個人情報の使用の同意をいただいています。

家族風呂のある虹の湯へ



【配慮したこと】

- ①虹の湯へ下見
(家族風呂の全体の広さ、酸素使用有無、家族風呂と食事場所の予約)
- ②多職種との連携
 - ・主任とシフト作成時の職員の参加人数調整
 - ・看護師へ酸素使用者の外出時注意点の確認



写真等の使用については、ご利用者・ご家族より個人情報の使用の同意をいただいています。



Yさんと焼肉へ行こう♪



◆ 事例の紹介 ◆

Y氏（女性、93歳、要介護4）

《基本情報》

◎既往歴・現病歴

・・・脳血管性認知症、脳梗塞、左上下肢麻痺。

◎生活歴

・・・専業主婦で一人娘を育てるのが生きがいであった。夫亡き後一人暮らしをしていたが、H28年脳梗塞で入院。片麻痺となり娘と同居。令和5年7月に入所となる。

◎ADL及び基本情報

・・・基本動作は介助あり。リクライニング車椅子を使用。長時間座っていると「早く寝たい」と臥床を希望される。
食事形態はキザミ食。スプーンを使用しご自身で召し上がられる。
ほぼ毎日下痢状の排便ある。

◎カンファレンスの様子

（本人）「脂身の少ない肉を食べたい。赤身のお肉が良い。」

（家族への聞き取り）「昔はよく家族と行きつけの昌久園に行っていた。」



➡ なじみの焼肉店への外出

写真等の使用については、ご利用者・ご家族より個人情報の使用の同意をいただいています。

思い出のある【昌久園】へ



【配慮したこと】

- ① 家族様へ参加依頼
- ② 昌久園への下見
（車椅子が入れる広さか）
- ③ 多職種との連携
 - ・看護師・栄養士と食事形態の確認、下剤の調整
 - ・セラピストへポジショニング確認、離床時間の工夫

写真等の使用については、ご利用者・ご家族より個人情報の使用の同意をいただいています。

考察（利用者）

- ①本人の思いを共に考える時間をもうけた（カンファレンス）ことにより、これまで聞きとることができなかった本人の思いを知ることができた。
- ②多職種が協同し細かな心身への配慮を行ったことで、これまで外出が難しかった利用者の希望が叶った。
- ③普段とは違った表情や言動などをみることができた。

考察（職員）

- ①ご本人がカンファレンスに入る事で、想いを知るきっかけになり、個人の理解が深まった。
- ②施設を出た企画は初めてだったが、成功したことで、職員（私）自身の出来ることが増え、自信に繋がった。
- ③家族の理解・協力が大事だと思った。



未来に向けて

① 重度な方の主訴実現がおいてけぼりになっていないか…

主訴の実現 = 外出支援と捉われすぎていた

➡ 個々の些細な『こだわり』を把握

➡ 些細なコトでも良いので日常生活の中で実現する



未来に向けて

② 『こだわり』を叶え続けるには、マンパワーの確保が必要。

➡ 家族様と共にケアできる、良好な関係性をつくる





日常にちょっとした楽しみを ～たまには居酒屋気分で～

社会福祉法人 聖徳会
大阪老人ホームうえだ
宇佐美亜樹・植村由香・香美朋子

社会福祉法人 聖徳会

施設一覧

明治35年創業の歴史を持ち、大阪の枚方市と藤井寺市を中心に、医療・介護・保育分野で日々サービスの向上に努めています。「目の前に置かれている人がいる。そのことに目を向けることはできない。」という創設者・田尻次郎の思いを大切に、今日まで事業を展開してきました。

施設番号	施設名	住所	TEL	FAX
01	春日通老人ホーム 大阪老人ホーム	大阪府枚方市阿保3丁目14番12号	TEL 072-331-4164	FAX 072-331-2302
02	春日通老人ホーム 大阪老人ホームうえだ	大阪府枚方市阿保3丁目15番1号	TEL 072-336-1250	FAX 072-336-1231
03	春日通老人ホーム 大阪老人ホームうえだ	大阪府枚方市阿保3丁目15番12号	TEL 072-331-4164	FAX 072-331-2302
04	春日通老人ホーム 大阪老人ホームうえだ	大阪府枚方市阿保3丁目15番1号	TEL 072-336-1250	FAX 072-336-1231
05	春日通老人ホーム 大阪老人ホームうえだ	大阪府枚方市阿保3丁目15番12号	TEL 072-331-4164	FAX 072-331-2302
06	春日通老人ホーム 大阪老人ホームうえだ	大阪府枚方市阿保3丁目15番1号	TEL 072-336-1250	FAX 072-336-1231
07	春日通老人ホーム 大阪老人ホームうえだ	大阪府枚方市阿保3丁目15番12号	TEL 072-331-4164	FAX 072-331-2302
08	春日通老人ホーム 大阪老人ホームうえだ	大阪府枚方市阿保3丁目15番1号	TEL 072-336-1250	FAX 072-336-1231
09	春日通老人ホーム 大阪老人ホームうえだ	大阪府枚方市阿保3丁目15番12号	TEL 072-331-4164	FAX 072-331-2302
10	春日通老人ホーム 大阪老人ホームうえだ	大阪府枚方市阿保3丁目15番1号	TEL 072-336-1250	FAX 072-336-1231
11	春日通老人ホーム 大阪老人ホームうえだ	大阪府枚方市阿保3丁目15番12号	TEL 072-331-4164	FAX 072-331-2302
12	春日通老人ホーム 大阪老人ホームうえだ	大阪府枚方市阿保3丁目15番1号	TEL 072-336-1250	FAX 072-336-1231
13	春日通老人ホーム 大阪老人ホームうえだ	大阪府枚方市阿保3丁目15番12号	TEL 072-331-4164	FAX 072-331-2302

取り組みの きっかけ…

コロナ禍で制限のある生活…そろそろ少しずつ緩和していけたら

(法人内の感染症対応マニュアルをもとに対応)

施設内の行事に関して、令和5年度までは各フロア(2ユニットで1フロア)ごとで開催していたが、令和6年度になり、少しずつ緩和。

面会や外出もしやすくなり、少しずつ以前のよう催しができたら…

生活支援課・看護課・栄養係で何かできないかと考え、今回の居酒屋喫茶の開催にたどり着いた。

取り組みの きっかけ…

コロナ禍になってから入職した職員(常勤)も多く、年間行事以外で施設でできる行事やイベント、レクリエーションがどういうものなのか、どんなことができるのかわからない、想像がしにくい職員もあり、良いきっかけづくりになればと考えた。

また、利用者だけでなく、職員にとっても楽しい時間と sentir される取り組みになれば、仕事のやりがいを感じたい、日々支援していること以外の利用者との関わりに楽しみを感じたいとなるのではないかと考えた。

準備として・・・

- ・1階に喫茶室があり、毎週火・土曜日に担当の職員(厨房委託業者の方)が喫茶を行っている。喫茶営業日以外は売店(お菓子や日用品を扱っている)があるぐらいで、そのほかはお昼に職員の休憩場所として使用している。
- ・喫茶営業日以外で、担当者(生活支援課、看護課、栄養係)の勤務を合わせ、令和6年7月～月1回、7フロア(2ユニットで17フロア)ごとに順番に開催することを決めた。
- ・普段の喫茶室で、居酒屋の雰囲気が出るようにするにはどうすれば良いか、担当者で意見を出し合い検討した。

準備として・・・

- ・サービス検討委員会の食事担当の職員と管理栄養士が協力し、利用者の食べたいものや飲みたいもののリクエストを聞き、できる限り対応できるようにした。
- ・アルコールを希望される利用者もおられるため、ご希望の方にはご家族へ相談の上、看護課は既往歴や内服薬の確認などを行い、アルコールの提供の準備を行った。

手探りで始めた1回目...

- ・介護職員が誘導や介助を手伝ってくれたものの、注文を聞くこと、料理を出すこと、どの作業にしても、てんやわんや・・・誰の注文？食事形態は？これ出したっけ？と、ひたすらパニックのまま終了。
- ・居酒屋風の飾りつけ、のれんをかけたり、カウンターにお酒の空き瓶を飾るなど雰囲気作りを行い、『居酒屋の雰囲気出てる』、『良いねえ～』と好評であった。
- ・音楽があった方が雰囲気が出るのでは？と意見をいただき、次から採用することに。

回を重ねるごとに手際よく...

- ・注文用紙はカウンターに挟むことで分かりやすく、料理を出せば注文用紙は片づけることで、順序良く料理が出せるように。
- ・食事形態をカウンター内に貼り出し、書き出すことで、その方に合った食事形態のものをすぐに提供できるように。
- ・ミキサー食の方には、事前に聞き取りしたものをあらかじめ準備しておくことで、スムーズに提供することができた。

料金システムは・・・

- ・居酒屋喫茶の日は通常のおやつを発注せず、ジュースへ切り替え、居酒屋でジュースを提供。(ジュースの種類に限りあり)
- ・おやつの代替えとして厨房から出してもらったジュースは無料とし、その他買い出した食材費は提供できる人数でそれぞれ割り、50～250円程度で1品を提供。
例えば:だし巻きたまご 160円で購入4人分とし、1人前を50円で提供。
- ・召し上がられた分を計算し、後日精算。

工夫した点

異なる食事形態でも同じ料理が提供できるように準備

だし巻きたまご



たこ焼き



工夫した点

- ・たこ焼きはよく注文されるため、事前に数人分温めて置き、温蔵庫へ。ポテトは油を使い危険なため、事前に聞いた注文分は調理して温蔵庫へ。
- ・刺身やお寿司は一人前ずつに盛り冷蔵庫へ。お寿司は1貫そのままだと食べにくいいため、1貫を半分にし、手まり寿司に。
- ・調理スペースが狭いため、調理に時間のかかるものなどは事前に準備し、調理スペースの確保を行った。

海鮮丼に 一工夫 して・・・



工夫した点



炭酸がお好きな方でおせやすく水分にとろみが必要な方に、試供品でいただいた炭酸用のとろみ粉を使用。通常のとろみ粉の場合、発砲しやすく吹きこぼれてしまい、なかなか炭酸のシュワシュワを感じていただけなかった。初めて使用してみたが、吹きこぼれることなく、また炭酸を残したままとろみをつけることができた。

発見した点

- ・今回担当した私たちは全員が主婦でもあり、普段からスーパーを利用しているが、利用者が食べる目線で買い出しの準備に行くことで今まで気づかなかった食材に気づいたり、海鮮丼から手毬寿司にするという発想もできた。食べる方のことを考えて料理を提供するということの大切さを改めて実感した。

結果と今後...

- ・利用者からは『また来たい』、『次はいつ?』との感想をいただき、喜んでいただけた。
- ・サービス検討委員会の食事担当と協力し、利用者の食べたいもののリクエストに応えることができた。
- ・事前にある程度の注文を聞いて買い出しに行っていたが、自分が何をリクエストしたか忘れてしまい、リクエストメニューを準備していても注文されない方がいたり、個数に限りのある料理で事前にリクエストされていない方が当日注文されたいと、難しい部分があった。冷凍の商品であれば次回へ繰り越せるが、生ものや冷蔵商品などはその日に出すしかなく、最後押し売りのような形になることもあった。

結果と今後・・・

- ・ おおむね好評であったため、今後も続けていきたい！ と考えた私たちは



- ・ 5か月間は2ユニットごとに実施し、利用者の食べたいものをリクエストしていただき、買い出しに行っていたが、生ものなどは残ってしまうと困るため、基本は冷凍や冷蔵のもので電子レンジやトースター、自然解凍などで提供できるものに変更。
- ・ 大がかりな調理は職員の負担も大きく、また今後、今回の担当者以外にも関わってもらうために、調理の工程がわかりやすいものに限定する。
- ・ ユニットごとにするのではなく、開催日には誰でも来てもらえるようにする。

結果と今後・・・

- ・ 居酒屋の雰囲気は大切にし、BGMや飾りなどはそのまま使用する。
- ・ 特別なこととして行うのではなく、月1回開催されるものとして定着化させていきたい。



居酒屋喫茶の名前を職員に募集し、アンケートを取り、

はらぺこ亭 に決定

**ご清聴
ありがとうございました**





社会福祉法人 悠人会
特別養護老人ホーム

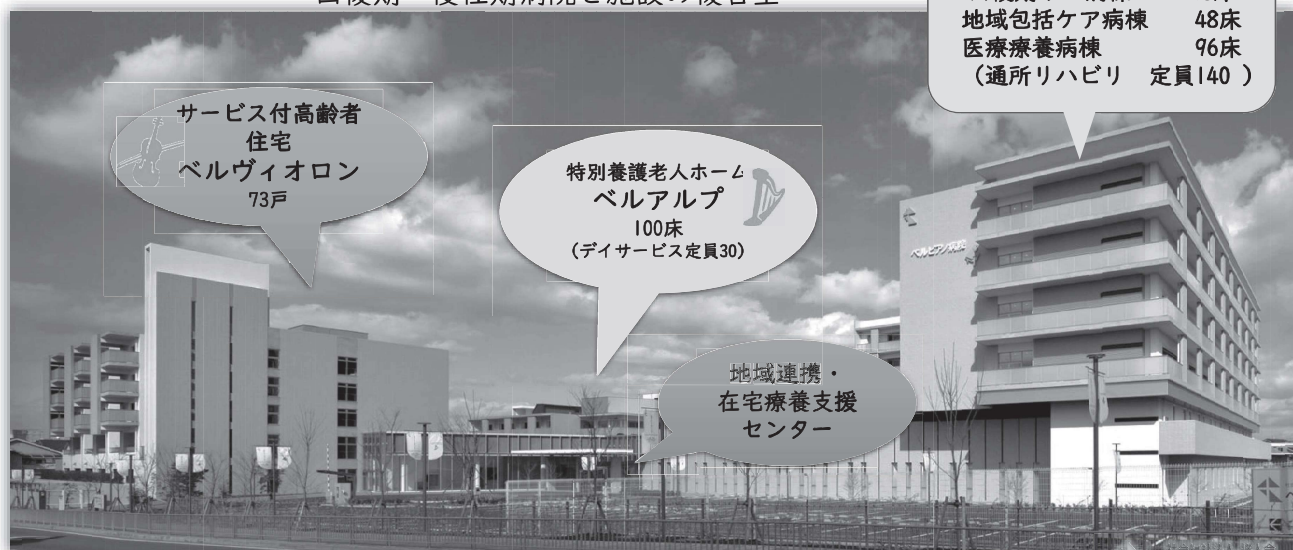
ベルアルプ

その人の暮らしを
より豊かにする為に

発表者 小原 誠

ベルアンサンブル ～健康と安心と賑わいの街～

回復期・慢性期病院と施設の複合型



ベルアンサンブルとは、美しい鐘の響きとピアノ・ハープ・バイオリンの合奏が調和された健康と安心の街をイメージしています



ベルアルプの紹介

基本方針

その人らしさを
大切に

笑顔あふれる
生活を

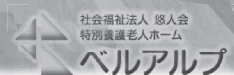
1ユニット：10名

ユニット数：10ユニット

利用者数：100名

平均要介護度：4.1

(2024年4月時点)

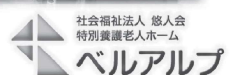


取り組みの背景＜Ⅰ＞

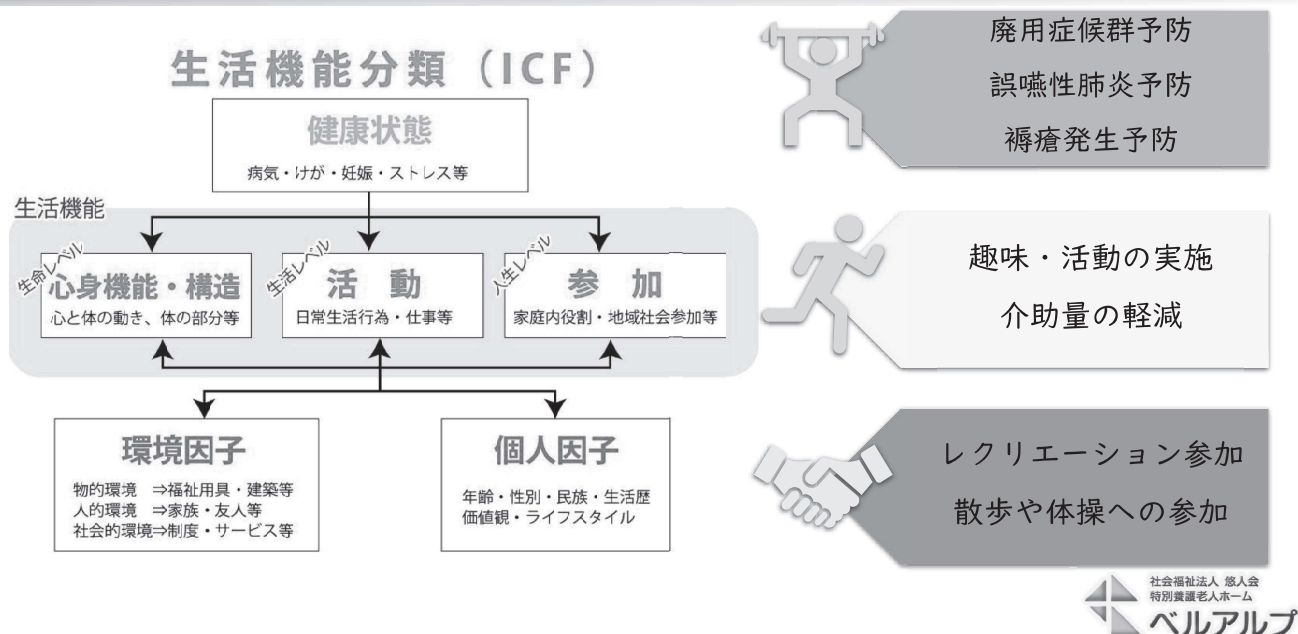
杏・桜ユニット活動目標

QOL・楽しみへの支援

平均要介護度：4.3



取り組みの背景＜２＞

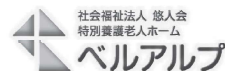


現状把握

- ①障害高齢者日常生活自立度
- ②個々の離床時間（自立支援促進加算実績）
- ③ユニットメンバーへのフィードバック面談

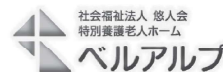
障害高齢者日常生活自立度

2024年



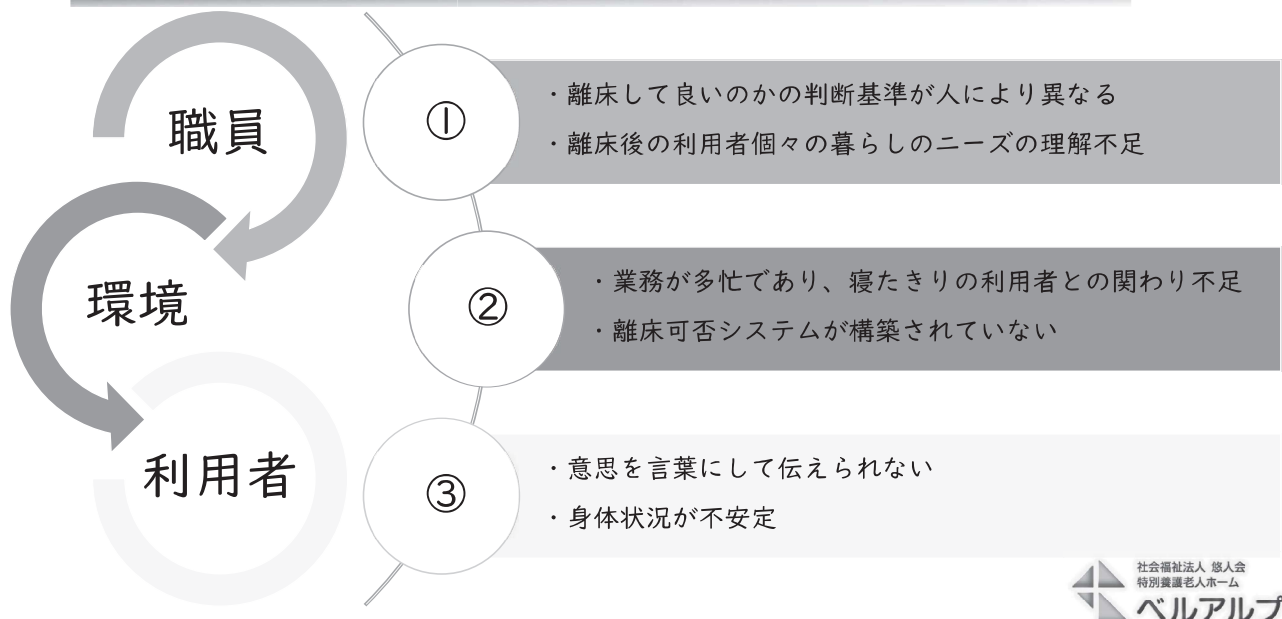
個々の離床時間

11名中 5名

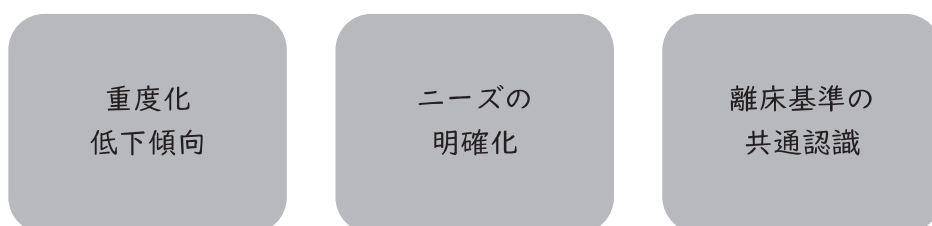


現状把握③

ユニットメンバーへのフィードバック面談



現状把握から考えられる事



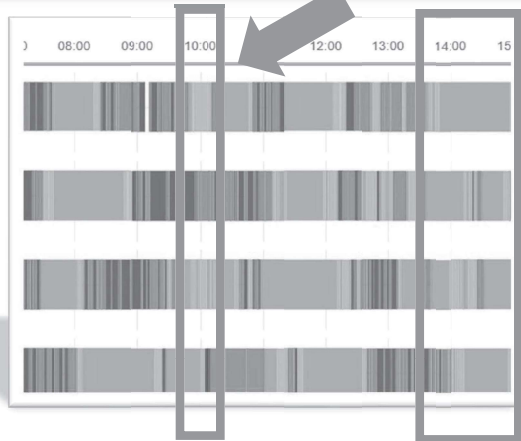
それぞれの課題に対する対策が必要

対策①

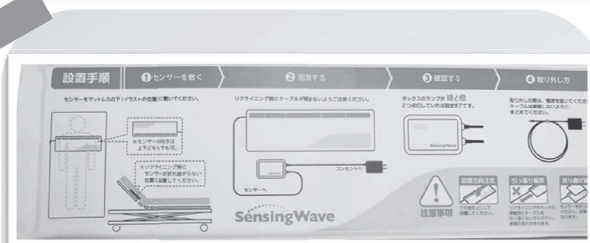
覚醒時間の把握【生活パターン】⇒離床基準

10時頃はやや覚醒している

14時頃より覚醒又は離床する傾向がある



青色は入眠状況を示しています
ピンク色は離床又は覚醒を示しています

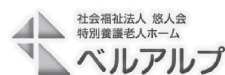


把握ツール

センシングウェーブで覚醒状態を把握

狙い

離床するタイミングを覚醒状況に合わせる



対策②

ご本人の望む暮らし・ご家族の意向【ニーズ明確化】

記入例 暮らしの情報シート ベルアルプ様 30.1+

()にコピート 氏名()様

その人らしい生活を提供するために、私達が目指すケアとは一人ひとりの生活習慣や好みをも尊重し、今までの暮らしが継続できるようにケアしていくことです。

そのためには、家族様にご協力頂き、実地が無い程度で結構です。お聞かせ頂けますようお願い申し上げます。お手数ですが、ご記入の程宜しくお願い致します。

A-①

ご家族や周囲の方が、本人のベルアルプ入所までの経過についてお聞かせ下さい。

認知症の症状が気づかれた時期、要介護認定を受けた時期、サービス利用開始時期等

(その時の本人、家族様の様子、本人や家族の努力、苦勞など)

(その時期にあったこと、その場起こったこと、暮らしの出来事など)

いつ頃	その時の様子	その時期にあったこと等
2000年 4月	物忘れをする自分に対して「ぼけたんちやうか」など言立ちや怒りの言葉が多く見られた。	1年程に主人が亡くなる。 法事の際、準備していた物品の保管場所がわからず、家族も異変に気づく。
2000年 7月	家事は出来るが、家族に対して「ぼけたいするんか」「もう用なしかなど」定型的な言葉や感情が不安定。	医療中央病院受診、脳血管性認知症と診断される。介護認定も取得。
2000年 9月	家族がトイレや入浴、着替えるように声を掛けるが継続的に拒否が見られる。家事に対する意欲も徐々になくなり、無気力な様子が見られる。	ぬくもりデイサービスに見学に行くも「後継見知りばかりやし、あんた所に行きたくない。他人に知られたら笑われるわ」拒否。
2002年 4月	主介護者就労の為、居間は自宅で1人で過ごすことが多くなり、昼間の区別がつかなくなる。	転倒や外食など有次第、前記デイサービスへの通所(月～金曜開始)。 以前のような振舞見られなくなる。

本人・ご家族様 アンケート

※面会頻度が少ない方へ

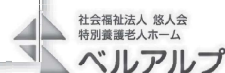
1.ご本人様となかなかお会いできていないと思うのですが、気になる点はありますか？

レクリエーションや何かの活動に参加出来ているか気になります

2.今後、望まれることはありますか？

本人の望む生活を送ってほしい

3.その他、お気付きの点などありましたらご自由にお書きください。

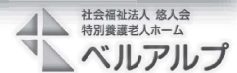


対策③ 離床等における注意点

体操実施直前に離床を行い、参加を促す。その後リビングで間食の自己摂取促す。(30分以内で)
(血圧100以下、酸素飽和濃度95%以下の場合は、居室にてオーバーテーブル使用し、セッティング行う)

12:00	・昼食を食べる。	・和食が好き。野菜は嫌い。	・スプーン・フォークを使う。	#1	・チャージアップし、壁ペドギヤック81cmに設置し、オーバーテーブルに食事をセッティングする。 ・手置きができるように、クッションでポジションニングを行う。	昼食 主ミキサー粥 副ミキサー(トトロミ) 水分:トロミ(2%)
12:30	・歯を磨く。	・食後は口をゆすぎたい。	・両手で歯ブラシを持ち磨く事ができる	#2	・オーバーテーブルへヘッドと歯ブラシ、ガングリベースを手渡し口腔ケア促す。必要時介助 ・歯磨き後、手洗い/拭き手指の清潔保持に努める。	
	・オムツを替える。	・交換して欲しい。		#3	・声掛けし、体位保持可能。腫れ・臀部を潤滑行う。	オムツ:アデント パット:ウルトラ
13:00	・TVを見る。	・クラシックや、テレビ番組を見るのが好き。	・ベット欄を持ち、体位維持が出せる。	#4	・自己に危険を伴う動作を伴うため、チャンネルは手の届く場所に置く。	
14:00	・お風呂に入る。	・お風呂に入りたがる。	・移乗時、介助者を掴む事ができる。	#2	・プライバシーシーツを脱ぎ、洗面・洗髪・洗顔・着脱。入浴準備を全介助で行う。	入浴 入浴形態:スピン 入浴日:月・水(週2)
14:30	・体重を測る。	・そろそろ軽きたい。		#5	・入浴後は全身をティッシュで拭き、乾燥を防ぐ。必要時保湿剤を塗布する。	体重測定 月1回:第2日曜 間食 形態:ゼリー
15:00	・体操をする。	・歴史は得意。	・手を挙げて答えることができる	#1	・体操実施直前に離床を行い、参加を促す。その後リビングで間食の自己摂取促す。(30分以内で)	
15:30	・おやつを食べる。	・甘い物は好き。コーヒーも好き。	・手で持って食べる事ができる。	#6	・血圧100以下、酸素飽和濃度95%以下の場合は、居室にてオーバーテーブル使用し、セッティング行う)	

多職種協働による、離床判断の明確化



利用者様のご紹介



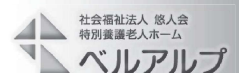
A様：88歳
寝たきり度：B2
日常生活自立度：Ⅲb
好きな事：身体を動かす事
昔の日課：珈琲を飲む事
1日離床時間：30分程度

生活背景

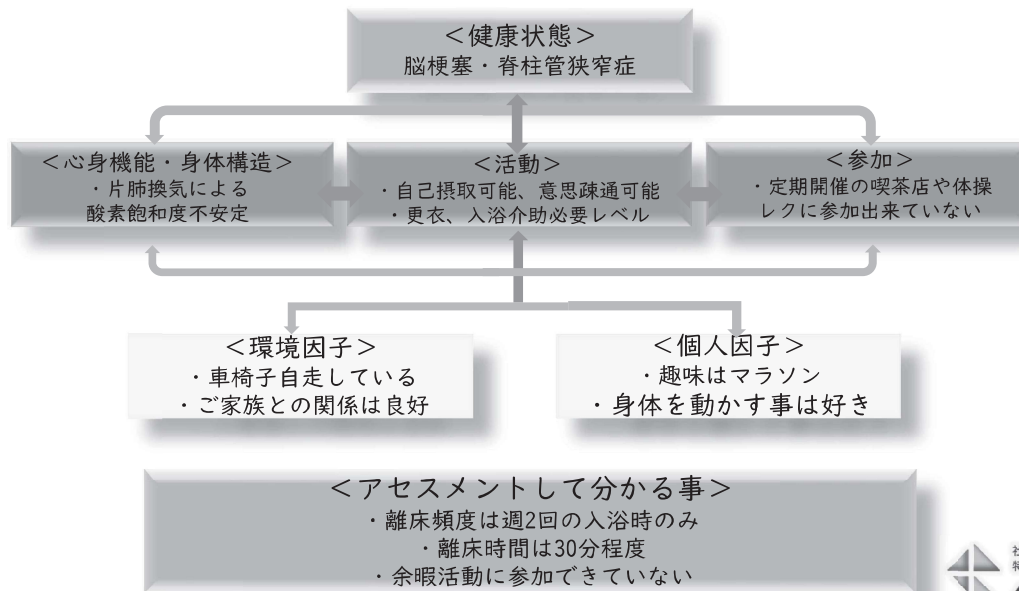
役所勤めで喫茶店で珈琲を飲む事が日課
身体を動かす事が好き
マラソンやだんじりにも参加されていた

現状の想い

以前のように身体を動かしたい
珈琲を馴染みの関係にある他者と飲みたい



A様のICF



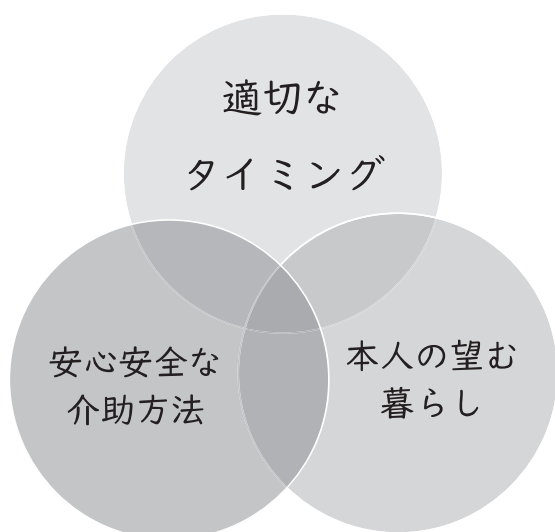
社会福祉法人 悠人会
特別養護老人ホーム
ベルアルプ

実践事例：A様



社会福祉法人 悠人会
特別養護老人ホーム
ベルアルプ

結果



<レクリエーションの参加回数>

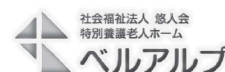
前：週1回 後：週2～3回

<企画参加回数>

前：無 後：毎月

その人らしさ

暮らしの継続



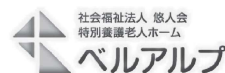
考察

ICFモデルを活用し全体像から課題を抽出した事

本人の生活リズムに沿って各対策を講じた事

他部署との連携による離床判断の明確化

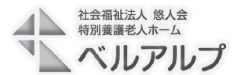
その人の視点や想いに沿った支援が
暮らしをより豊かにする



波及効果



暮らしにおける役割を担う方が少しずつ増えてきました



課題

暮らしに対するアセスメントを継続するには
生活背景や想いについてチームとして情報共有する事を意識
「望まれる暮らしの実現」へ



*

認知症があっても 「はたらく」 「地域で暮らす」

－ たちばなの里における「支援付き雇用」の実践 －

2025.2.21 『高齢者福祉実践・研究大会2024 in Osaka』

社会福祉法人光風会

特別養護老人ホームたちばなの里 施設長 次田尚哉

2 *

本日の内容

1. 自己紹介
2. 2040年問題について
3. 本日の主役「立花里子さん」
4. 支援付き雇用の開始
5. 経過および今後の課題
6. 実践による副次的効果
(職員アンケートより)

今回の発表に際して、里子さんのご家族に個人情報の取り扱いについて説明したところ
「母のような方がこれから増えてくると思うので是非みなさんに知ってもらいたい」と了承を得ています。

社会福祉法人光風会 特別養護老人ホームたちばなの里

理念 地域で暮らし、支え合えるまちづくりに貢献します。

1999(H11)年3月21日 開設（従来型）

- 介護老人福祉施設
- 短期入所生活介護
- 居宅介護支援事業所
- 訪問介護
- 通所介護
- 地域包括支援センター



特別養護老人ホームたちばなの里別館永楽

2012(H24)年6月1日 開設（ユニット型）

- 介護老人福祉施設
- 短期入所生活介護



2040年問題

2040年問題とは、高齢化と人口減少が進行する中で予想される一連の社会的・経済的問題を指します。2040年頃に団塊ジュニア世代層（1971年から1974年生）が65歳を超え、全人口に占める65歳以上の高齢者の割合が約35%に達すると予測されています。

■高齢者人口がピーク

- 認知症の増加（国民の4人に1人が高齢者でそのうち15%が認知症の方）
- 2人に1人が病院で「死ねない」時代 ➡ 在宅での介護・医療体制の確保・整備が急務
死者数170万人に対して病院ベッド数80万（多死社会）

■労働力の不足

- 職業年齢の延長（高齢者の役割増加）
- 医療・介護従事者の不足
- 地域包括支援システムの崩壊危惧

■インフラの老朽化・地方の過疎化

- 公務員も不足し、役所の機能も低下
- 公共投資・維持管理が追いつかない

あと15年しか
ありません

本日の主役



- ・ 立花里子さん（仮名）72歳
- ・ たちばなの里でヘルパー歴10年
- ・ 2023年2月頃からヘルパー支援先の利用者さんからの苦情が相次ぐようになる。
- ・ 要介護1 日中独居・夫婦世帯
- ・ 2024年まで洋服店経営
- ・ こども4人を一人で育ててきた
- ・ 働くことがいきがい

支援経過・対応

2023年2月初旬【第1期】

ヘルパー支援先の利用者さんからの苦情が相次ぎ、サ責から報告あり（買物ミス・支援時間の間違いなど）

混乱期

2023年4月末～6月末【第2期】

サ責同行の限界、短期記憶困難によるヘルパー業務の限界（すっぽかし・訪問困難・買い物困難）

承認期

- ・ サ責が「モニタリング」と称して支援時に同行し、できることと難しいことを把握し、支援内容を厳選。
 - ➔ 仕事量の減少による不信感
- ・ 地域包括と家族と私(施設長)による3者での話し合いの場
 - ➔ ①受診の勧奨（高血圧を理由に）
 - ②家族の受容／本人の葛藤
 - ③仕事量の減少への同意
- ・ 地域包括と家族と私(施設長)による3者での話し合いの場
 - ➔ ①「仕事」の継続を本人が希望される
 - ②福祉サービス利用に結びつけることが困難
 - ③業務内容変更と「支援付き雇用」の必要性

支援付き雇用のスタート

「支援付き雇用」の開始（2023年7月～）

7 *

■業務の変更の必要性

■業務の選定とマッチング ➡ ヘルパー支援での経験を活かす

【ご本人の状況】 短期記憶が難しく、各動作に声かけが必要

【業務の候補】 清掃・洗濯・喫茶 など ➡清掃で試行実験

■支援付き雇用の決定と雇用の継続

ご本人は福祉サービス利用を全く位置付けることができない状況

支援者は私（施設長）が担当し、時間帯は毎朝7時～9時の2時間

業務は清掃で決定、既清掃用務員とは別のエリアを担当する

働きたいという気持ちを尊重し、生活と就労の両輪の環境整備

8 *

「支援付き雇用」の開始（2023年7月～）



1階職員用トイレ・デイサービストイレ・廊下・玄関および隣接公園清掃

「新たな働き方」の提案 (2024年8月～デイ喫茶の補助)



「はたらくこと」と「暮らすこと」の支援

「はたらく」ための環境は「生活・健康」といった暮らしの安定と車の両輪のようなもの

①定期的に家族と地域包括と私(施設長)との情報交換

- ご本人の状況により福祉サービスを利用することができないため、生活のサポートは家族支援に委ね、定期的に意見・情報交換の機会を設定している

②認知症状の進行に伴う対応の変化の必要性

- 服薬確認や食事、金銭的な管理など家での生活については家族中心に協力
- 不安と責任感のために毎時間来ってしまうなどの行動については職員全員で協力

③新たな職域の拡大による日中見守りの効果

- ご主人が日中は働いており、独居状態になるため、働く環境を整えることで日中はたちばなの里が見守りをしている状況を担っている

今後の課題と可能性

■切れ目のない、状況の変化に応じた支援

- ・定期的に家族と地域包括と私(施設長)との情報交換の継続

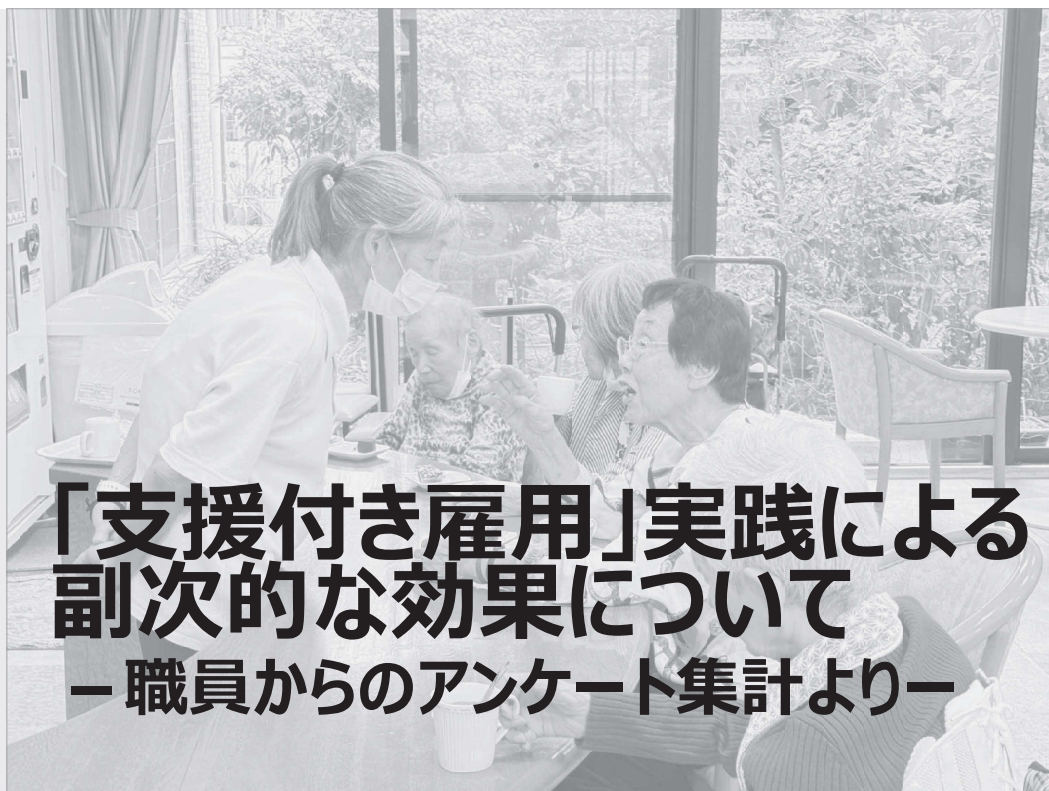
■働くための支援者および理解者の養成が必要

- ・「認知症のある方でもはたらける」という認知症に対する理解やご本人のへの深い理解と柔軟な対応

➡ 採用コスト面や時間捻出の観点から今のところは私(施設長)以外は不可能

- ・里子さんに直接かかわった職員はみんなが理解者になった

■ 今後は若年性認知症の方や高次脳機能障害の方の就労にも汎用できる可能性があるため、引き続き実践経験を積み重ねていく



**「支援付き雇用」実践による
副次的な効果について**
ー 職員からのアンケート集計よりー

職員アンケートの結果に見る意識の変化

たちばなの里職員数120名中89名が回答

①里子さんが「支援付き雇用」で働いているのを知っていますか。

知らなかった 17名 知っている 72名

②里子さんの働く姿をみて、ご自身の「認知症」に対するイメージの変化はありましたか。

変わらない 16名 あまり変わらない 27名 変わった 39名 かなり変わった 7名

回答者の52%が「変化を感じた」と回答

職員アンケートの結果に見る意識の変化

③認知症の理解について具体的にどのような変化がありましたか。

- ・認知症といっても何もかもができなくなるというわけではないと再認識しました。
- ・認知症のある方は働くことが難しいと思っていましたが、周りの支援があればいろいろな業務ができることを知りました。
- ・認知症は他人事ではないことを感じさせてもらえました。
- ・できることを活かせる環境づくりと業務の切り出しにより仕事が可能になることを知りました。
- ・認知症を理解しているつもりでしたが、いつの間にかできないと決めつけてしまっていたことをあらためていかなければいけないと思いました。いろいろな業務ができることに驚いています。

職員アンケートの結果に見る意識の変化

- ④ 法人が障害をもつ方や認知症のある方が働く環境を整えていることを通して、あなたにとって職場内での人のかかわり方にどのような影響がありましたか。
- ・職場に認知症のある方がいることで、今まで以上に認知症に対する理解や意識が高まっていると思う。
 - ・認知症のある・ないにかかわらず、一緒に働く仲間として働くいい取り組みだと思います。
 - ・相手に対してマイナス部分ではなく、プラスの部分を見ることができるようになった気がします。
 - ・何を考えて、どのような気持ちでいるのかを察することがとても大事なことであることを今まで以上に考えるようになりました。
 - ・周辺業務を担ってもらっていることで助かっている。
 - ・部署を越えて一緒に働く仲間ということを意識するようになりました。

職員アンケートの結果に見る意識の変化

- ⑤ 里子さんが働く姿を見ることによって職場の雰囲気はどのような変化を感じますか。

悪くなったと感じる	0 人	少し悪くなったと感じる	0 人
どちらともいえない	40 人	少し良くなったと感じる	27 人
良くなったと感じる	22 人		

回答者の55%が「雰囲気が良くなった」と回答

アンケートからのまとめ

- ①職員にとって立花里子さんの「支援付き雇用」の実践は、認知症のある方が身近に感じられて比較的好意的に受け止めている。
- ②職員にとって立花里子さんが一生懸命に働く姿は、施設の雰囲気も明るくし、自身の認知症の考えやイメージを転換させる機会になっている。



たちばなの里の「支援付き雇用」は、認知症のある方の「はたらきたい」をカタチにするだけでなく、一生懸命に働く姿や仲間として再承認することで認知症がジブンゴトになり、それぞれの職員の価値を転換する副次的効果が得られている可能性を示唆していると考えられる。

発表のまとめ

今回は偶然にも認知症を発症した職員への対応として「支援付き雇用」を進めてきました。里子さんへのアプローチは今後も状況に応じてバージョンアップしていくことになります。認知症のある方への対応は他の利用者の方々への考え方と同様に、思いや状況に応じて多種多様です。今回の里子さんのように「はたらく」ことだけが全てではありませんが、これからも「何らかの役割を担ってもらう」ことを大切にしながらご本人や家族と一緒に考え、進めていきたいと考えています。

**ご清聴
ありがとう
ございました!**

社会福祉法人光風会

特別養護老人ホームたちばなの里

**Instagramにて
日常の様子を投稿中!**

[https://www.instagram.com/
tachibananosato/](https://www.instagram.com/tachibananosato/)

たちばなの里 で検索お願いします!

R7.2.21(金)
13:15~13:35

『こども食堂から広がる支援の輪』 ～ワクワク体験を添えて～



達成を掲げるSDGs項目



社会福祉法人 みささぎ会
藤井寺特別養護老人ホーム
ソーシャルリレーション推進室
室長 淵本 直志

〒583-0024 大阪府藤井寺市藤井寺4-11-7 TEL...072(952)0008 FAX...072(952)0337
E-mail...fujiiidera@misasagikai.or.jp ホームページ...<http://www.misasagikai.or.jp>

Profile

氏名 淵本直志(フチモトナオユキ)
資格 主任介護支援専門員/介護福祉士/社会福祉士
職歴 2002.4 みささぎ会 入社
2020.10 ソーシャルリレーション推進室 室長

こども食堂 坂の上のキッチン

開催日時 主に第3日曜日 11:30~15:00

開催場所 藤井寺特別養護老人ホーム
1階デイフロア

対象者 主にこども ※未就学児は保護者付添

料金 大人100円 こども無料

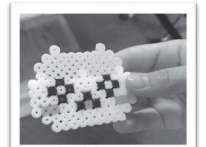
定員 35名 ※50名まで可

特色 わくわく体験



坂の上のキッチン活動報告

開催月	参加人数	メニュー	わくわく体験
令和5年 6月	17名 (9名)	カレーライス	カーリング トルネードポテト作り
8月	20名 (12名)	焼きそば・からあげ	夏祭り
10月	24名 (15名)	ハンバーグ	焼き芋・焼きマシュマロ ピーズアクセサリー作り
12月	37名 (21名)	シチュー	クリスマスコンサート クレープ作り
2月18日	約40名 (21名)	すき家の牛丼	チャンバラ合戦 おもしろ実験
令和6年 4月21日	約35名 (20名)	カレーライス サラダ 珈琲(大人)	草木染・よもぎ団子作り
5月19日	約35名 (20名)	ミニお好み焼き	なぞときゲーム 綿菓子作り
6月16日	約40名 (24名)	ふわとろオムライス ジェラート(ゆずりは)	〇×クイズ アイロンビーズ
7月17日	41名 (27名)	冷やし中華・しゅうまい・スイカ おやつ:わらび餅	朝顔の壁掛け作り・カラオケ 手作りおもちゃ等
8月18日	46名 (29名)	緑日グルメ 焼きそば・たこ焼き等	緑日遊び
9月15日	約37名 (23名)	すき家の牛丼	お仕事体験 すき家クイズ・プリン作り



お食事



豆腐を入れてなめらに

こども達と

手作りおやつ

↑このお米どこから？

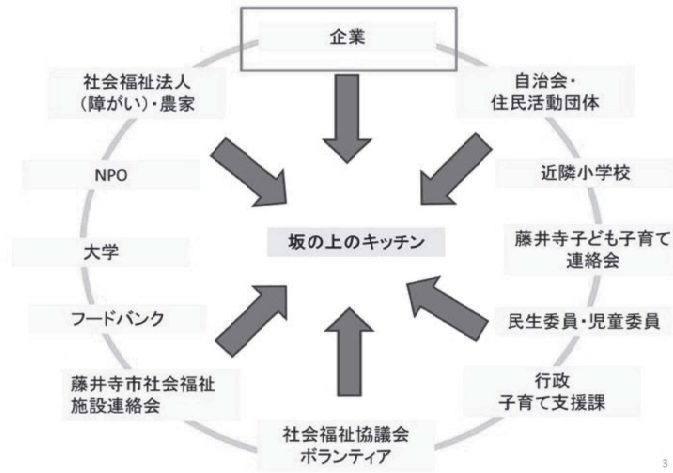


飯室珈琲焙煎所

大人向け食後の珈琲



広がる支援の輪



地域みなさんと一緒にこどもを育くむ

企業



すき家さんとのコラボ開催



コラボ1回目:食事提供のみ



コラボ2回目:食事+牛丼クイズ+お仕事体験

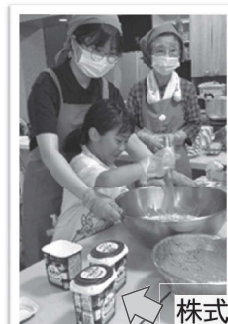


企業

三井住友銀行藤井寺法人営業部との交流



企業・地域のお店



株式会社明治



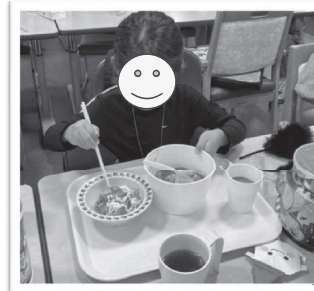
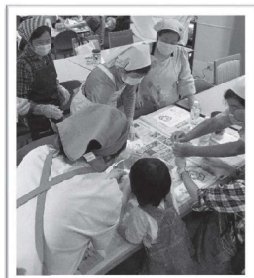
ポケモン・ウィズ・ユー財団



ライオン株式会社
おくちからだ
プロジェクト



防災カレー作りの日はなんと！！



近隣小学校・民生委員児童委員



総会：坂の上のキッチンの取り組み



令和 6 年度入居者との交流会再開



福祉教育：サポーター

令和 7 年度

○施設開催マルシェに参加
・伝承遊び

・民生委員児童委員のお仕事を
伝える（民生委員新聞）

○市内の子ども食堂との関り

自治会・NPO・企業



地域の会館でフレイル予防教室

令和6年度

○近くのスーパーが閉店して買い物に困っている

○会館で先々こども食堂を開催したい



毎週火曜日：コープ買い物便



地域のこども食堂見学

令和7年度
協働できそうな事

○こども食堂
立ち上げ協力

○夏休み子どもの
居場所作り

- ・現在、早朝ラジオ体操
- ・学習支援

○多世代交流

- ・現在、会館使用率2割

今後の展望・まとめ



昨年発表時以降

○来年度はこども食堂を毎月1回開催する
⇒実施

○未就学児の受入れ人数も増やしていく(柔軟に対応する)
⇒実施

- ・コロナが5類となったので、地域や近隣学校とのつながりを増やしていく
⇒藤井寺市のこども食堂団体と市民祭りで出店
⇒子育て団体が製作する子育て情報誌のメンバー入り
⇒藤井寺市母子寡婦福祉会への協力(食材運搬等)

- ・行政(こども未来部)、地域、学校関係者と連携しながら地域の中に あったらしいなを創造していく
⇒買い物困難者支援

今後の展望

○こども食堂を開催して1年半経経過。
毎回参加される方も多く、こども達の居場所となっている。また、親同士の交流や近所の独居高齢者の参加等多世代交流の場にもなっている。

○こども食堂を通して、沢山の方と繋がりができた。
一つの施設、法人では解決できない地域課題でも協働して取り組んで行く。

<地域課題>

- ・朝食の喫食率低下
- ・ヤングケアラー、不登校、引きこもり
- ・小1の壁・買い物困難者
- ・夏休みの居場所(自習室等)



13



出張認知症カフェ 奥さまうっかり カフェ

社会福祉法人堺福社会
ハートピア堺

豚瀬陽市

松谷美由紀

「奥さまうっかりカフェ」は、認知症カフェの出張カフェです



ハートピア堺では、物忘れなどで困っている人とその家族、支えたい人が集まって、茶飲み話をする「認知症カフェ」を毎月1回開催しています。

高齢者も大人も、若者も子どもも誰でもが集い“認知症”というキーワードのもとに、集まれる場所を、様々な団体や組織の人が協力して作り上げることで、本当の意味での「認知症にやさしいまちづくり」を推し進めていくことができます。

そこで、大学キャンパスをちょっとお借りして出張カフェをやってみることにしました。

「奥様うっかりカフェ」誕生

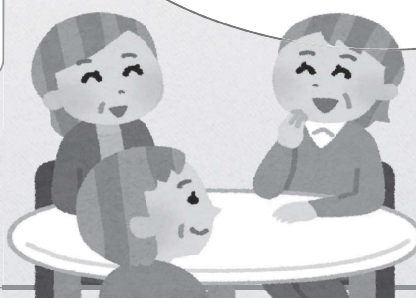
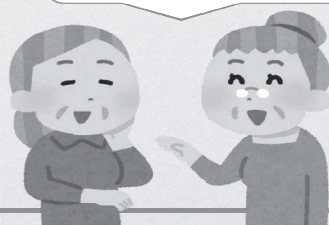
「認知症とか物忘れとか年寄り臭いのは嫌」

「奥様うっかり」
「それは私のことやね」

「うっかりは任せとき！」

物忘れはあかんのですね
「うっかりカフェ」は？

立候補してくださいね



取り組みの紹介

令和6年5月から「堺市と関西大学の地域連携事業「コンパッションコミュニティとしての地域作り」として、月に1度食堂をお借りしました。

5名ほどのご利用者と一緒に大学に出張し、45分程度の開催です。

参加人数

	5月	28名
	6月	22名
キャンパス祭	6月	50名以上
	7月	34名
	10月	36名
	11月	52名

8月と9月は休み

必要があれば付き添いの専門職に介護の相談をすることもできます。スタッフの他に、関西大学の学生がボランティアとして協力してくれました。



カフェの内容

駄菓子くじと今日の一言を引いて
もらってからカフェスペースへ



駄菓子くじ



今日の一言



cafe

コンパッション

学生の変化

うっかりを認める体験を通じて、認知症の理解につながっている



- 認知症の方と会話するのは初めて！はじめは表情が硬かったが、やわらかくなった
- 今日の一言を通じてコミュニケーションがスムーズに
- 戦争体験に耳を傾けてくれる機会



ハートピア堺 文化祭での様子

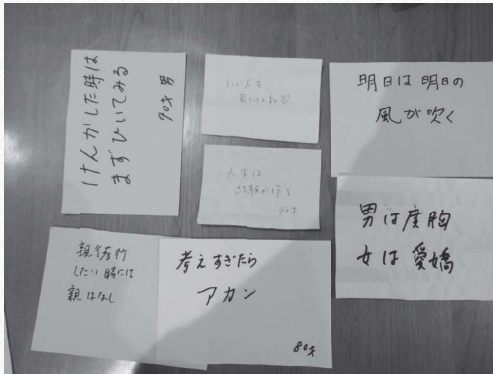
スタッフの気づき

- スタッフの伝え方で行動が変わる
- 誰もが楽しいこと、印象に残るようなことをケアに取り入れたい
- 認知症ケアは一緒に楽しむことが大切



奥様たちの 変化

気持ちは思った以上に
身体に影響する



ワクワクすることは何
歳になっても楽しい

周りが認めてくれるこ
とで、勇気をもって
チャレンジすることが
できる

認知症カフェのこれから



奥様うっかりカフェの活動を経て、従来の認知症カフェについても変化がありました。

コンパッションコミュニティの考え方に触れてから、相手と共にいること、相手のためにいることを意識しカフェの参加者の方に片付けのお手伝いをお願いしたり、獅子舞や豆まきなど、みんなで参加できるイベントを取り入れました。また、認知症カフェの後に、みんな食堂として、子供から高齢者まで食事をする場を再開しました。

子供が高齢者に交じってご飯を食べたり、介護で悩んで来られた方は、専門職ではなく同じような立場の方にお話しを聞いてもらうことで楽しかったと言って帰られたり、学生がボランティアで手伝ってくれたり、演奏のボランティアで初めて老人ホームを訪れたり・・・

相手に対して心を寄せる、相手にとって自分がどう役立つかを感じるという場が地域を繋げるために必要であると思います。

認知症カフェという言葉で多くの人が繋がれば良いとおもいます。

周囲の方々が寄り添う能力を持てるように我々が働きかけることで、自ずと住みやすい街になります。

ご清聴
ありがとう
ございました

社会福祉法人堺福祉会
ハートピア堺

堺 瀬 陽 市
松 谷 美 由 紀



うっかりカフェ用
コミュニケーションロボ





押して 押して 引いて (引いて 押して 引いて) 引いて 引いて 押して

ひらかた聖徳園 地域連携課 野坂崇将
デイケアセンター 岡本雅子

枚方市



枚方市
HIRAKATA

2021年
・人口 約39.3万人
・高齢化率 28.4%



2042年
・人口 約32.7万人
・高齢化率 36.4%

特別養護老人ホーム ひらかた聖徳園



1969.4～ 開設

2005.12～ 移転・建替



全室個室、ユニット型。
定員 120 名

地域連携課 2015.10.1～



特別養護老人ホームの生活支援グループが兼務。
生活相談、施設ケアマネジメント業務に加えて、
下記の活動を行う。

- I. 課題の解決を目指す活動
- II. 繋がりが続くことを目指す活動
- III. その他の活動

・居場所づくり、自主化の支援



居場所の定義

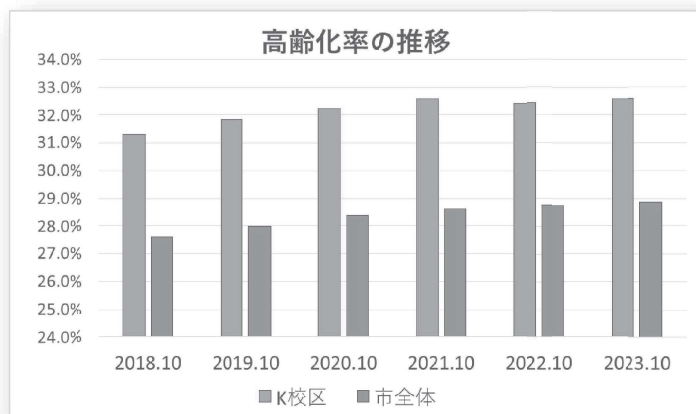
- ・高齢者が住み慣れた地域で、自由に集まり、交流することができる場所
- ・自主的に出かけるきっかけと仲間づくりの場所
- ・集う人々に、義務感ではなく満足感が生まれる場所

背景



K校区・・・

- ・校区の中心に長い坂道があり、地形の起伏が激しい。
- ・対象地域は、その坂道に沿って広がる閑静な住宅街で、一区画が大きい一戸建てが並び、主な公共交通機関までは距離がある。
- ・高齢化も進んでおり、自宅から出かけることが少ないため体力的に不安のある方が多い（校区福祉委員会）



枚方市総務監理課 人口統計情報より



枚方市保健福祉計画より

枚方市保健福祉計画21（R3-5）

■家族構成

ひとり暮らし：全体19.5% / 75歳～21.7% / 85歳～35.5%

■外出する頻度

週1回以下：全体13.2% / 75歳～18.2% / 85歳～35.5%

■外出を控える理由

足腰の痛み（54.7%）、病気のため（18.6%）、
楽しみがない（14.3%）、交通手段がない（10.6%）、
経済的な余裕がない（10.3%）

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2019.12）

■健康づくりに取り組んでいない理由

意識したことがない（52.5%）、きっかけがない（15.0%）、
何をしたいか分からない（10.0%）、
仲間がいない（5.0%）

■今後やってみたい活動

仲間と趣味・娯楽（32.5%）、学習・教養関連（16.5%）、
スポーツ関連（15.8%）、
介護予防・健康づくり（14.9%）

高齢者の健康づくり調査（2020.1）

取り組み内容



対象：65歳以上の住民

内容：住まいの徒歩圏内に「居場所」づくりを進め、
一人ひとりが健康に楽しく過ごし、仲間づくり
ができるよう、無料～低額で「きっかけ」を提供する。

回数：2回/月

2020.2～



初 期

中 期

後 期

現 在

自宅から「出る」
みんなで「集まる」きっかけづくり

➡まずは意欲を高める支援

押して 押して 引いて



2020.10～



初 期

中 期

後 期

現 在

押して 引いて

コロナ禍！
工夫を重ねて、集う場所の維持を！

➡何よりも気持ちを繋ぐ支援

引いて 押して



2022.3～



初 期

中 期

後 期

現 在

引いて 押して 引いて

参加者同士での仲間づくりを促し、自主的な運営へ

➡できた繋がりを強める支援

2024.4～



初 期

中 期

後 期

現 在

引いて 引いて 押して

住み慣れた地域で、楽しみをもって元気に過ごしていただける環境へ

➡そっと背中を押す支援

効果・成果



- 校区全体の「敬老の日イベント」への参加率が高くなり、維持されている！
 - 足が不自由な方や歩くことに自信のない方も、仲間が誘い・連れ添うことで参加に繋がっている！
- ➡居場所に通っていることが、自信になっている。

効果・成果



- 唱歌を歌おうの会など、他の活動参加も増えている！
 - 自分たちで決めた企画（紅葉狩り・忘年会など）を楽しみに過ごされている！
- ➡動くことが、次に動く原動力になっている。
目標ができることで、さらなる意欲に繋がっている。

効果・成果



- ・ 校区全体の「敬老の日イベント」への参加率が低い
「K11自治会」について、居場所づくり、自主化の
支援をお願いしたい！ （校区福祉委員会）



- ・ 2024.7～ 2ヶ所目の居場所づくり、自主化の支援へ



課題



- ▼ 定性的なご意見はたくさんいただくが、
定量的なエビデンスに乏しい・・・



- ・ 事前、後に体力測定の実施、アンケートの実施など
目に見える形でお返しができるば・・・



今後に向けて



- ・ 地域と「顔の見える関係」を築き続ける
- ・ 個のニーズ把握から新たな活動に繋げ、地域ニーズの把握へ
- ・ 地域の中で「繋がる」きっかけをつくる
- ・ 専門機関にとらわれない多機関連携を図る

地域連携課は



『地域に住む方々の良質な生活を支援するとともに、一人ひとりが支え合い、安心して暮らせるまちづくりに貢献します』

押して 押して 引いて
引いて 押して 引いて
引いて 引いて 押して…



地域共生社会の実現に向けた 町会との合同防災訓練

社会福祉法人聖徳会
大阪老人ホーム
介護支援専門員 朴 英浩

◎地域共生社会の実現に向けて◎

一人ひとりの暮らし

多様性の
尊重

活躍の場
づくり

気かけ合う
関係性

安心感の
ある暮らし

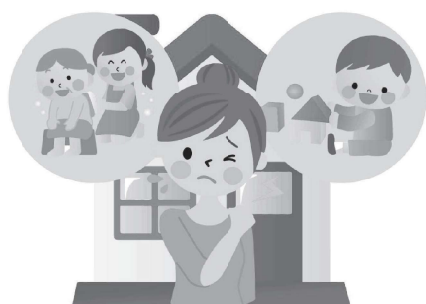


地域共生社会
誰もが役割を持ち活躍する

◎地域の課題◎



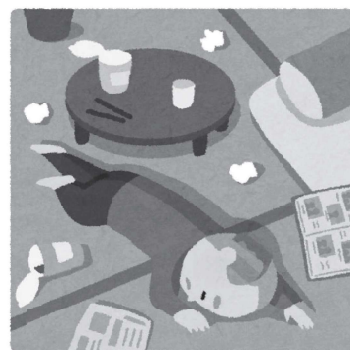
8050問題



ダブルケア



児童・高齢者虐待



孤独死



◎地域における福祉と防災の連携・共同◎

学校



地域にある社会資源
や機関との連携

介護保険施設



防災訓練

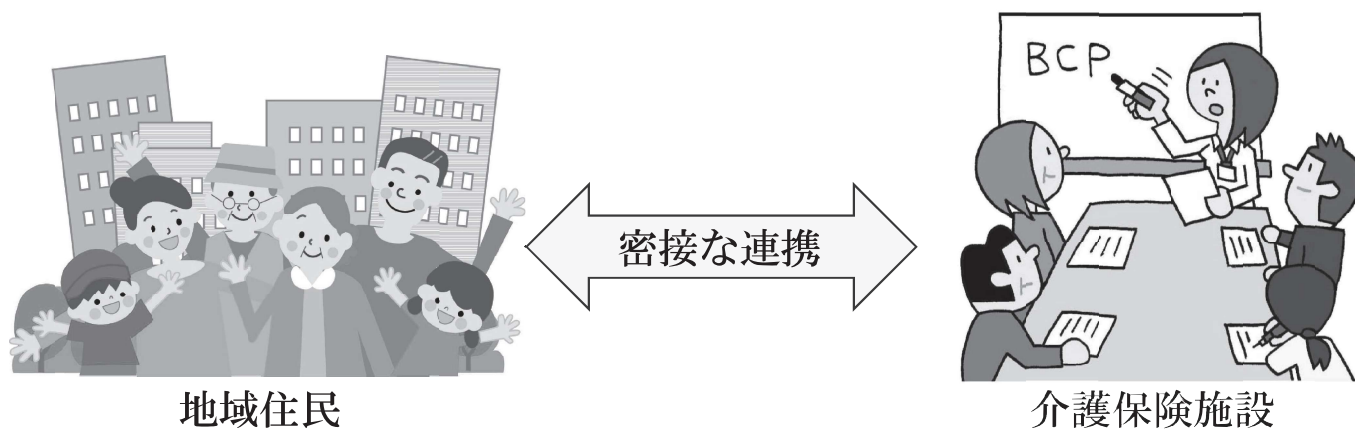


自主防災
組織

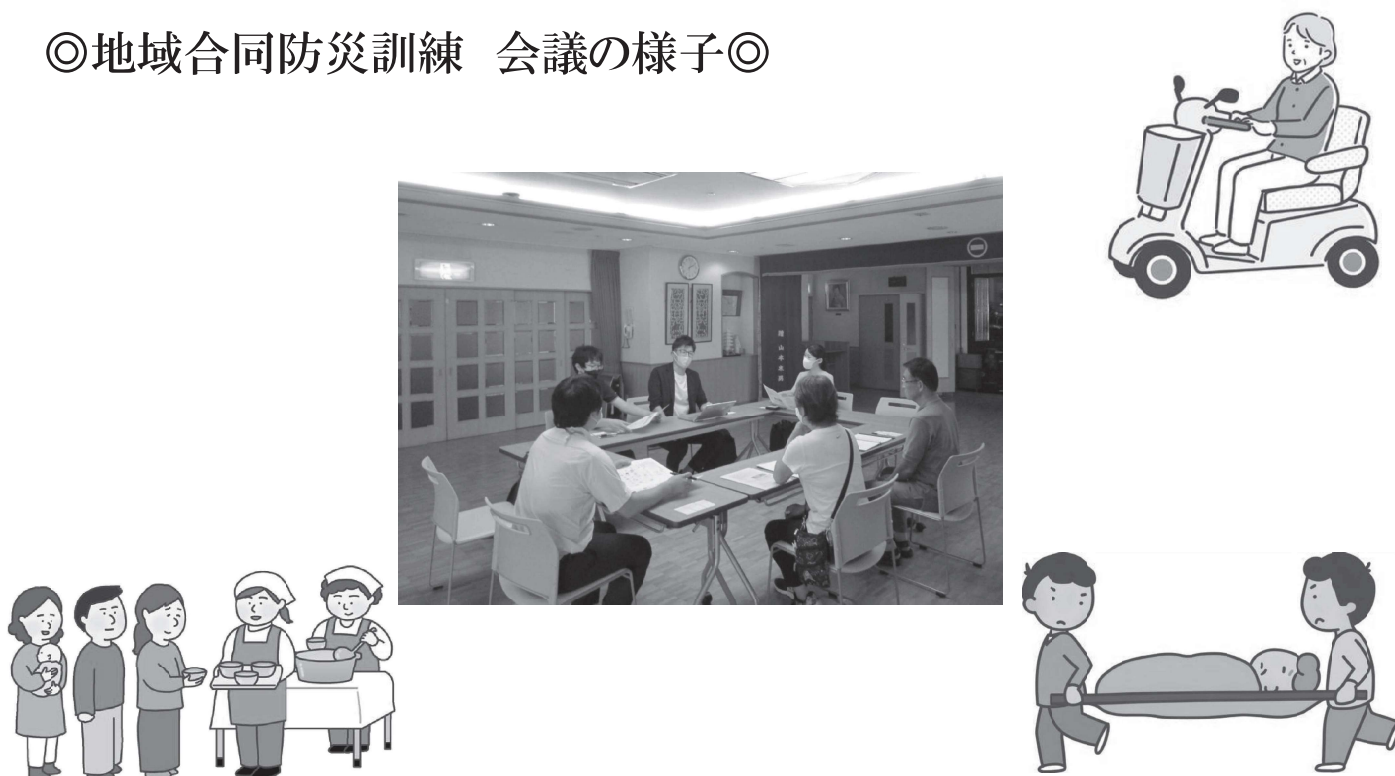
地域住民同士の
支え合い



◎指定介護老人福祉施設における
運営基準やBCP策定の義務◎



◎地域合同防災訓練 会議の様子◎



◎地域合同防災訓練 当日◎



◎抽選会の様子◎



◎振り返り会議の様子◎



今回の地域合同防災訓練を気に、万が一の災害時にも協力して乗り越えることができるよう、今後も取り組んでいきたいと思います。



参考文献・資料
物語で学ぶ 地域共生社会をつくる ソーシャルワーク

今までのつながり これからのひろがり

繋がりから生まれる新しい可能性

中第2地域包括支援センター

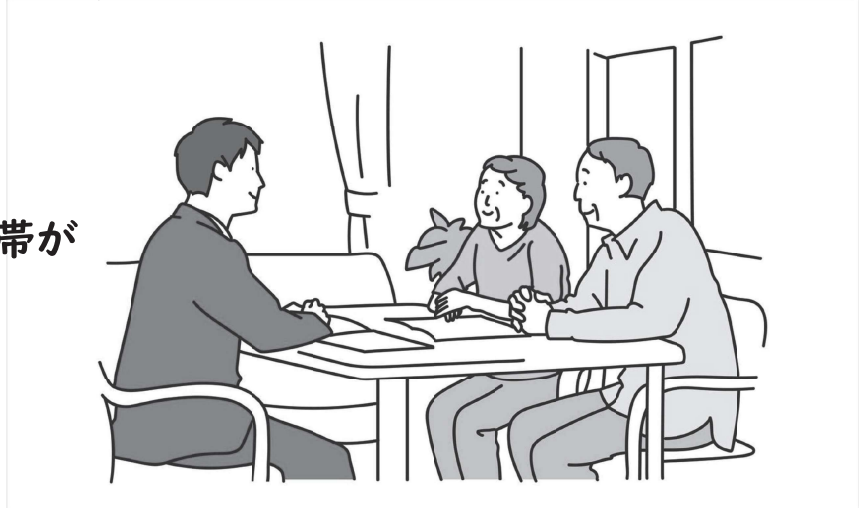
中第2地域包括支援センター

地域包括支援センターは
65歳以上の方の総合相談窓口。
毎日、様々な内容の相談が
寄せられています。

最近の相談傾向

- ・ 認知症の周辺症状や精神疾患によるトラブル
- ・ 若年者・高齢者の引きこもり
- ・ 制度のはざま問題
- ・ 孤立死

⇒複雑な課題を抱えた世帯が増えている。



たとえば



Aさん（72歳女性）

- ・ 元気で認知症なし
- ・ 息子と同居

Aさんの息子（45歳）

- ・ 20代に人間関係のトラブルで仕事を辞め、そこから定職につかず引きこもっている状態
- ・ 感情の制御が難しく、イライラすることがあるとAさんに八つ当たりして暴力をふるいます。

助言が入らない。

困りごとが慢性化しているため、高齢者に危機感がない。

高齢者には支援の必要性がないため地域包括として助言できることがない。

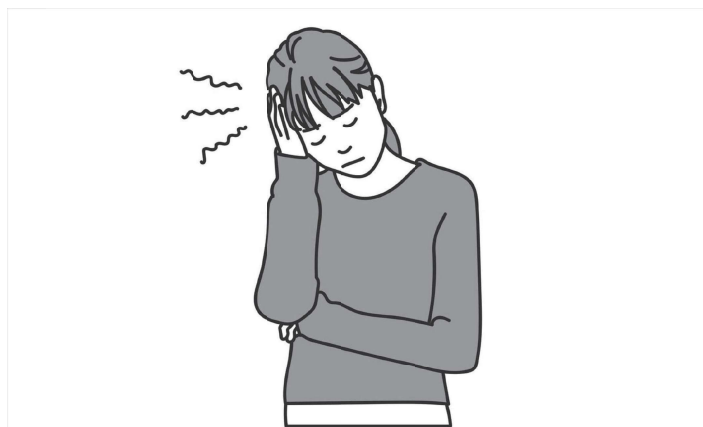
65歳未満の方は地域包括支援センターの担当ではない。

かといって、支援の繋ぎ先もない。

見過ごすこともできない…

困った状況であるには間違いないけど、
当の本人が困っていない。

だから事態が動かない……



堺市高齢者見守りネットワーク事業所交流会



民生委員・ボランティアさんたちの悩み

- ・ 本当に困っている人は通いの場に出てこない。
おうちの中でだれにも相談できずに、
どんどん困りごとが大きくなっていつている。
本当はそんな方を見守りたいが、
手段やアイデアが思い浮かばない。

- ・ ボランティアさんの数が
減ってきていて、
地域の隅々まで目が届かない。



事業所の悩み

- ・ 地域の為に貢献したい！
- ・ 見守り事業所登録をしたけれど、
見守りと言われても、実際に
なにをしたらいいか、
全然わかっていません…



今、地域に必要なのは協議体

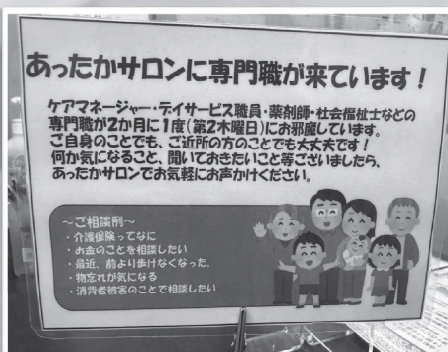
土師近辺の
居宅介護事業所、薬剤師、
デイ職員、包括職員が、
土師あったかサロンで住
民さんたちと交流する。

何気ないおしゃべりの中で
ご本人や、近所の方の
困っていることを発掘

適切な相談窓口につなぐ。
悩みごとの解決。

困りごとの
早期解決
重度化防止

※土師校区「あったかサロン」専門職アウトリーチ型相談会における
協議体作りフローチャート



当事者だけでなく、支援者も。
誰一人取り残さない、
困りごとを抱え込まない地域を目指して

